

厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）
分担研究報告書

北海道における受検～受診～受療に至る効果検証と質向上のための
肝炎医療コーディネーター養成のあり方

研究分担者 小川浩司 北海道大学病院 消化器内科 助教

研究要旨

北海道において2017年度より合計3回の肝炎医療コーディネーター（肝炎 Co）研修会を開催し、合計416名の肝炎 Co を養成した。依然として札幌圏が314名と多かったものの、すべての二次医療圏に肝炎 Co が配置された。2017年度養成者の活動状況を解析したが、肝疾患患者の相談対応、肝炎に関する知識の普及・啓蒙、肝炎ウイルス検査の受検勧奨、服薬指導、受療援助やフォローアップ等がされていたが、未報告者と併せると52.5%が十分な活動ができていない可能性があった。活動できていない方の60%は仕事環境によるものであったが、36%は今後のフォローアップにより改善の余地があった。今後も、北海道および道内3大学の拠点病院と連携して、養成した肝炎 Co のフォローアップやスキルアップも行っていく。

A. 研究目的

肝炎から肝硬変、肝臓への移行を減らすためには、肝炎ウイルスによる肝病態の進展抑制が必要である。そのためには肝炎ウイルス検査の受検、受診、受療の促進が必要である。肝炎医療コーディネーター（肝炎 Co）は肝炎に関する基礎的な知識や情報を提供し、肝炎への理解の浸透、相談に対する助言や相談窓口の案内、受検や受診の勧奨、制度の説明などを行うこととされ、2017年4月に都道府県に養成するように通知されている。

2015年度で肝炎 Co を養成している都府県は33自治体に及ぶが、北海道では未養成であった。2017年度に初めて肝炎 Co 研修会を開催し、2019年度までに合計3回の肝炎 Co 研修会を開催した（図1）。本報告では北海道における肝炎 Co の現状及び問題点について報告する。

図1 北海道における肝炎医療コーディネーター研修会



B. 研究方法

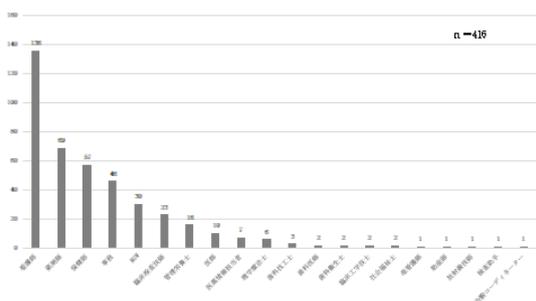
北海道における肝炎 Co の養成状況を解析するとともに、2017年度の養成者を対象としたアンケート調査を行い、肝炎 Co の活動内容について解析した。さらに、肝炎 Co のフォローアップ状況について検討した。

C. 研究結果

肝炎 Co の養成状況

3回の研修会により合計416名の肝炎Coを養成した。職種別では看護師136名、薬剤師69名、保健師57名、事務職46名、MSW30名、臨床検査技師23名、管理栄養士16名、医師10名などであった(図2)。

図2 肝炎医療コーディネーター(職種別)



医療圏別では依然として札幌圏が314名と多かったものの、21ある二次医療圏すべてに肝炎Coが配置された(図3)。さらに、保健師の肝炎Coも配置が進み、19二次医療圏に配置された(図4)。

図3 肝炎医療コーディネーター(二次医療圏別)

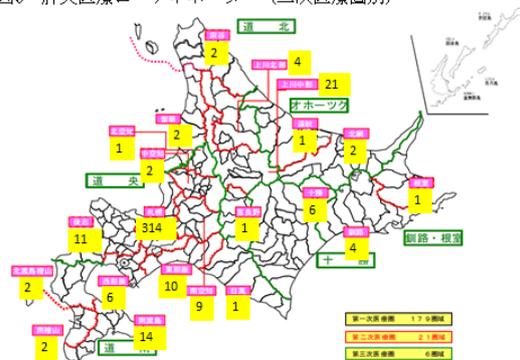
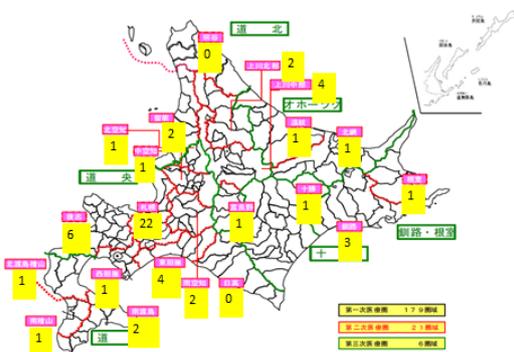


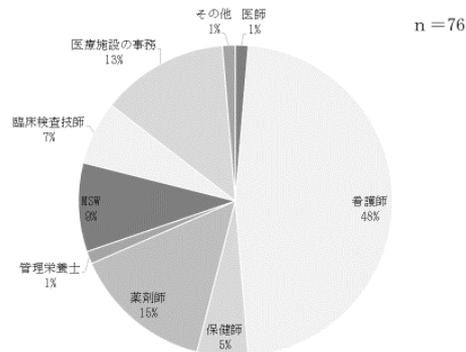
図4 肝炎医療コーディネーター保健師配置状況(二次圏域別)



肝炎Coの活動状況

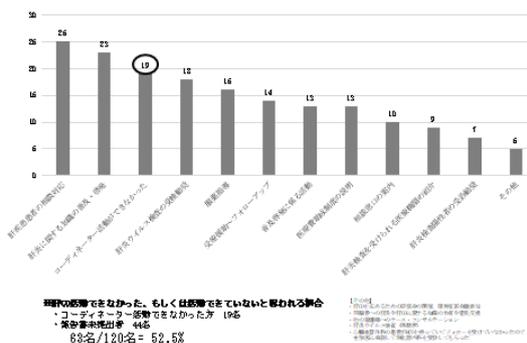
2017年度肝炎医療コーディネーター120名を対象として、活動状況を調査した。回答率は76名(63.3%)であった。回答者の内訳は看護師が48%、保健師が5%、薬剤師が15%、MASWが9%、臨床検査技師が7%、事務職が13%であった(図5)。

図5 活動状況調査への回答者の職種



肝疾患患者の相談対応(25名)や、肝炎に関する知識の普及・啓蒙(23名)、肝炎ウイルス検査の受検勧奨(18名)、服薬指導(16名)、受療援助やフォローアップ(14名)などであったが、活動ができなかった方も19名あり、未報告者と併せると63名(52.5%)が十分な活動ができている可能性がなかった(図6)。

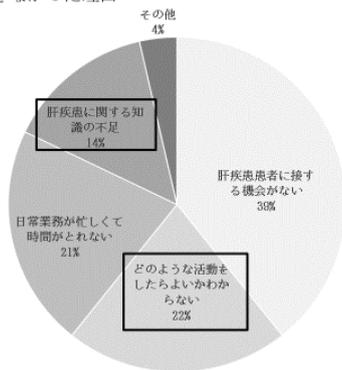
図6 肝炎医療コーディネーターの活動状況



活動できなかった理由としては、肝疾患と関わる機会がない(39%)、どのような活動をしたらいいかわからない(22%)、日常業務が忙しく時間がとれない(21%)、肝疾患に関する知識の不足(14%)などであった。肝炎Coの置かれている仕事環境により十分な活動が難しい方が約60%存在していたが、今後のフォローアップにより36%近くは改善が

見込めると考えられた（図7）。

図7 活動できなかった理由



肝炎 Co へのフォローアップ状況

北海道大学病院肝疾患相談センターは北海道、札幌医科大学附属病院肝疾患センター、旭川医科大学病院肝疾患相談支援室と連携して、肝炎 Co を対象とした講演会や研修会を開催した（表1）。多くの研修会は医師およびコメディカル向けであったが、肝炎 Co を対象として、2019年10月5日に肝炎 Co フォローアップ研修会、2019年12月9日にはグループワークも取り入れたスキルアップセミナーを開催した（図8）。

表1 肝炎医療コーディネーターへのフォローアップ

日数	研修会名称	対象	参加人数	研修CD	研修CD数	研修CD数	研修CD
2019/3/27	札幌研修会フォーラム	医師	91	10	21	91%	10%
2019/3/14	医師研修会（函館）旭川会場	コメディカル	32	9	29	16%	24%
2019/10/11	研究学術委員会	医師	46	0	46	100%	0%
2019/10/21	北海道肝臓病専門医研修会（帯広）	医師 （コメディカル）	43	4	39	91%	9%
2019/12/29	札幌研修会フォーラム	医師	60	1	49	92%	2%
2019/2/14	北海道診療技術基盤研修会（帯広）	医師 （コメディカル）	92	14	78	26%	16%
2019/3/22	札幌研修会フォーラム	医師	66	11	66	23%	11%
2019/9/12	札幌研修会フォーラム	医師	73	16	67	12%	22%
2019/10/6	北海道肝臓病コーディネーターフォローアップ研修会	肝炎医療コーディネーター	46	46	-	-	100%
2019/10/26	北海道肝臓病コーディネーター研修会	コメディカル	162	162	-	-	100%
2019/11/14	研究学術委員会	医師 （コメディカル）	29	0	29	12%	22%
2019/11/16	医師研修会（函館）札幌会場	医師 （コメディカル）	40	11	29	12%	21%
2019/12/4	札幌研修会フォーラム	コメディカル	62	11	61	22%	12%
2019/12/9	北海道肝臓病コーディネータースキルアップセミナー	肝炎医療コーディネーター	30	30	-	-	100%

図8 肝炎医療コーディネータースキルアップセミナー



また、北海道では地方の肝炎 Co も多いため、各大学での肝臓病教室を肝炎 Co 向けに動画配信を行っている。

D. 考察

北海道にて2017年から2019年度に合計3回の研修会を開催し、合計416人の肝炎 Co を養成した。依然として札幌圏に集中しているが、21ある二次医療圏全てに肝炎 Co が配置された。北海道は広大であるが、人口は札幌を中心とする道央地区に集中している。地方は肝臓専門医も少なく、肝炎対策は課題として残っている。その意味でも肝炎医療コーディネーターの果たす役割は大きいと考えられる。さらに、保健師も19医療圏で配置することが出来た。地方においては保健師の果たす役割も多く、今後も北海道と連携して、特に地方の保健師が研修会に参加できるように働きかけていく。

肝炎 Co への活動状況の調査では、様々な活動が把握できたが、未報告と併せると半数近くが十分な活動が出来ていなかった。活動できていない方の60%は仕事環境によるものであったが、36%は改善の余地があると考えられた。北海道は広大であり、人数を増やすことも重要ではあるが、今後養成した肝炎 Co が十分な活動出来るように、フォローアップ研修やセミナーなどで、スキルアップ、モチベーションを維持することが重要と考えられた。肝炎 Co を対象とした研修会は多数開催されたが、札幌市での開催がほとんどであった。地方の肝炎 Co は参加が困難であり、今後動画配信なども積極的に活用する必要があると考えられた。

北海道でもようやく肝炎 Co の人数が充足してきており、今後、各々の活動場所において受検、受診、受療の促進に寄与することが期待される。北海道、道内3大学の拠点病院とも連携して、養成のみならず養成者

のスキルアップを図る必要があると考えられた。

E. 結論

北海道においては3回の研修会により合計416名の肝炎Coを養成し、すべての二次医療圏に肝炎Coが配置された。肝疾患患者の相談対応、肝炎に関する知識の普及・啓蒙、肝炎ウイルス検査の受検勧奨、服薬指導、受療援助やフォローアップ等がされていた。活動できていない肝炎Coも今後のフォローアップにより改善が期待された。北海道及び3大学の拠点病院で連携して、今後のフォローアップやスキルアップを行っていく予定である。

F. 健康危険情報

特記事項無し

G. 研究発表

1. 論文発表

特記事項無し

2. 学会発表

北海道における肝炎医療コーディネーター養成の開始 第55回日本肝臓学会総会 メディカルスタッフセッション
2019年5月30日

H. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

特記事項なし

2. 実用新案登録

特記事項なし

3. その他

特記事項なし